

自然災害に学ぶ 茨城の歴史

—被災の記憶と教訓を未来へ—

江戸時代は、地震、津波、火山噴火、旱魃、高波、洪水など、数多くの自然災害に悩まされた時代でした。それは、私たちがくらす茨城の地も例外ではありません。私たちの先祖は、自然災害をどのように受けとめ、どのようにして苦難を乗り越えてきたのでしょうか。災害と復興の歴史には、大規模な自然災害が頻発する現代を生きるヒントが隠されているようにも思います。歴史学や地域文化遺産学の最新の研究成果にふれながら、自然災害を通して見えてくる茨城の歴史と未来について、一緒に考えてみませんか。

基調講演



たんげ やすし

田家 康

気候で読み解く日本の歴史

1959年、神奈川県生まれ。(株)農林中金総合研究所客員研究員。2001年、気象予報士の試験に合格、日本気象予報士会東京支部長。

著書に『気候文明史』(2010年)、『世界史を変えた異常気象』(2011年)、『気候で読み解く日本の歴史』(2013年)、『異常気象が変えた人類の歴史』(2014年)がある。

セッション1 江戸時代の災害・復興と民衆

江戸時代の災害の記録と被災資料

馬場 章 (東京大学)

大地震と江戸庶民

富澤 達三 (松戸市立博物館)

—ナマズ・鹿島信仰・鯨絵—

セッション2 被災の記憶と教訓を未来へ

関東・東北豪雨水害から文化遺産を救い出す

添田 仁 (茨城大学)

—茨城大学・茨城史料ネットの取り組み—

文化財レスキューから歴史まちづくりへ

大栗 行貴 (国見町教育委員会)

—福島県国見町の取り組みから—

原子力災害と避難に関する記録の保全と活用

白井 哲哉 (筑波大学)

11:30 開場
12:30 開会
12:40~13:30 基調講演 田家 康氏
13:40~14:20 報告 馬場 章氏
14:20~15:00 報告 富澤 達三氏
15:10~15:40 報告 添田 仁氏
15:40~16:00 報告 大栗 行貴氏
16:00~16:20 報告 白井 哲哉氏
16:30~17:20 パネルディスカッション
17:30 閉会

茨城大学図書館
2015年度後学期企画展

「東日本大震災と文化遺産
—学生と市民が守ったふるさとの記憶—」

東日本大震災で被災し、茨城や東北各地で、学生、市民によるボランティアの活動により救い出された文化遺産を公開します。

【日程】 2015年11月14日(土)~12月6日(日)
※11月21日(土)及び11月23日(月)は休館

【時間】 平日10時~16時、土日11時~16時

【会場】 茨城大学図書館1階展示室

【主催】 茨城大学図書館、科学研究費補助金(基盤研究S)「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立—東日本大震災を踏まえて—」(代表・奥村弘)

【問合せ】 茨城大学図書館利用支援係
Tel:029-228-8076

Mail: ser-lib01@ml.ibaraki.ac.jp



〒310-8512 水戸市文京2-1-1 茨城大学水戸キャンパス
JR水戸駅(北口)バスターミナル7番乗り場から茨城交通バス「茨大行(栄町経由)」に乗り、「茨大前」で下車。時間帯によっては「茨大正門前(最寄り)」で下車することができます。(バス乗車時間は約25分)

平成27年(2015)
12月5日 土
12時30分~17時30分

茨城大学人文学部
人文講義棟10番教室
(茨城県水戸市文京2-1-1)
入場無料 事前申込み不要